

乳幼児期の情緒形成不全の早期発見と治療的介入方法の研究

分担研究者 澤 田 敬(高知県立中央児童相談所)

研究要旨 子供は心温かい父母の下で育てられると、豊かな情緒の形成が保証される。しかし全ての父母は、毎日のように子供からかき回され、子育て混乱を起こしている。その上父母に子育てとは直接関係ない他のトラブル（a. 現在何かトラブルをかかえ、悩んでいる。b. 過去の心的外傷を、今でも過去のこととして整理できていなく、乗り越えることができていない。）が重なってくると子育て混乱はひどくなり、虐待など子供に心的外傷を与えるようになる。また乳幼児の心的外傷に対しては、早期発見、早期治療が大切である。

今回産婦人科病院、保育園、乳児園でチェックリストを使用し、リスク事例をキャッチし、一次介入を乳幼児精神保健学の専門家の指導の下で現場の職員が行い、二次介入を現場で、現場の職員の協力の下で専門家が行った。また乳幼児の心的外傷の治療にはアタッチメント療法が非常に有効だった。チェックリストはリスク事例発見に非常に有効だと思われる。しかし使用する助産婦、保育士は、乳幼児精神保健のスーパーバイザーの下で、乳幼児精神保健の知識を十分に身に付け、チェックリストの結果に操られることなく、自分の感覚を一番大切にし上手に利用すべきである。

リスク事例への対応は、その事例に合ったそれぞれ違った介入をすべきで、集団での対応では本格的育児混乱の解決にはならない。

研究目的

最近問題になっている思春期以後の問題行動、精神的混乱は乳幼児期、学童期に心が満たされなく、心の安全基地が出来ないまま育てていることがほとんどである。

乳幼児期、子供は父母に温かく抱きかかえられ、安定した愛着行動がとれるようになると、心は満たされ、心の安全基地は作られる。心が満たされなく、心的外傷を受けると、心の叫びを心身症・気になる癖・異常行動として表現する¹⁾。

虐待に代表される激しい子育て混乱は、単に子供だけの事柄でおこることはほとんどない。父母は子供以外で、過去、現在の解決されていない心的外傷に悩まされている^{2, 3)}。

乳幼児の心身症と父母の心的外傷のチェックリストで、子どもの情緒発達障害と父母の子育て混乱の原因が早期に発見でき、各機関がチームワークを組めば、早期の治療的介入も出来、子育て混乱や虐待の予防も出来、子どもの豊かな情緒発達も保証できる。

研究方法

1) 全ての母親父親は、毎日のように子供からかき回され子育て混乱を起こしている。その上母親父親に、目の前の子どもとは直接関

係ない次のような他の混乱をかかえていると子育て混乱はひどくなり虐待等になる^{2,3,4)}。

現在何かトラブルをかかえ、心的外傷を受けている（この子に対する不安、配偶者との不和、親との不和、経済的困窮、本人・家族の病気、職場・隣近所との不和等）。

過去の心的外傷を、今でも過去のこととして整理できていなく、乗り越えることができていない（子供時代の被虐待又は両親・家族に受け入れてもらえなかった心の傷、保育園・学校等家庭以外での心の傷、思春期以後の心の傷等）。

目の前の子供以外の心的外傷をチェックすれば、リスク父母をキャッチできる。

2) 父母の子供に対する対応状態を見ると親子関係を類推することができる。父母の児に対する対応方法よりリスク親子をキャッチできる。

3) 乳幼児の心身症・気になる癖・異常行動をチェックすることにより、児の心的外傷をキャッチできる¹⁾。

以上よりリスク父母に対するチェックリスト、リスク児に対するチェックリストを作成し、リスク事例をキャッチし、一次介入を乳幼児精神保健学の専門家の指導の下で現場の職員が行い、一次介入のみでは安定しない事例は二次介入を現場で、現場の職員の協力の下で専門家が行った。児の心的外傷に対して

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

はアタッチメント療法1)を行った。

1. 産婦人科病院

産婦人科医1人、助産婦1人、看護婦6人の個人開業産婦人科医院で取り組んだ。妊婦で過去、現在の解決できていない心的外傷を助産婦が母に質問しチェックリスト(図1)でキャッチし、また助産婦から見たリスク妊婦をチェックリスト(図2)でキャッチし、一次介入、二次介入をした。

2. 保育園

保育園児116人、保育士12人の保育園で取り組んだ。気になる親子について、a)幼児の心的外傷の表現である心身症、異常行動をチェックリスト(図3,4,5)でキャッチする、b)気になる父母像を保育士がチェックリスト(図6)でキャッチする。a)b)の結果を統合して検討をし、リスク親子に一次介入、二次介入をした。児の心的外傷に対しては園で保育士が、自宅で父母がアタッチメント療法を行った。

3. 乳児園

定員30人、保育士23人の乳児園で取り組んだ。気になる父母像を保育士がチェックリスト(図7)でキャッチし、一次介入、二次介入をした。

研究結果

1. 産婦人科病院での介入

妊婦84名中一次介入11名、内二次介入3名だった。

1) 一次介入のみ事例

事例1: 24歳 第2子

第一子は低出生体重児(出生体重2,190g。1ヶ月入院)だった。早産不安、育児不安あり。無事出産。正常児。母子介入で育児不安ほとんど無くなる。

事例2: 32歳 初産

夫再婚。低出生体重児(出生体重2,340g)。育児不安あり。母子介入で育児不安ほとんど無くなる。

事例3: 39歳 第2子

うつ病あり、精神科で治療中。無事出産。母子介入しているが、母の児への笑顔での働きかけが少ない。

事例4: 29歳 第2子

母再婚。子供は前夫の元に。別れた子供に対して罪悪感がある。母子介入で出産を楽し

んでいる。

事例5: 20歳 初産

父18歳。父は「子供の時のことは忘れた。子供時代のことは話したくなく、写真もない」と言う。中学時代不登校も有った。無事出産。親子介入で、父の話し掛けは少ないがよく赤ちゃんの世話をしている。

事例6: 17歳 初産

父20歳。無事出産。育児不安有り。親子介入で、両方の両親の十分な協力あり、父母共楽しんで育てている。

事例7: 27歳 初産

父30歳。育児不安有り、助産婦につまらないことを色々尋ねる。父は一緒に来るが入室を勧めても診察室に入って来ない。親子介入をした。父母共エコー内胎児を見て喜ぶ。育児不安大分軽くなる。母は助産婦に甘える。

事例8: 26歳 初産

父31歳。つわりがひどく、父にべったり甘えている。親子介入をした。父母共エコー内胎児を見て喜ぶ。つわり、甘えは続いている。

2) 二次介入症例

事例1: 35歳 第3子

父34歳。母は妊娠中絶手術を希望。流産予防を拒否。父親に不倫の子供と思われ父母間の不和あり。母子介入をした。無事出産。母は赤ちゃんを可愛がるが父は全く相手をしていない。離婚を考えている。

事例2: 27歳 初産 保育士 流産の夢をみる 子育て不安

父30歳。2カ月目初診。妊娠とわかり非常に喜んだ。つわりが始まった2カ月末より、妊娠経過は順調で、全く心配ないと説明受けるが、頻回に流産の夢を見る。父は「夢なんか気にするな」と子供に関心を示さない。出産、出生後の子育てに自信なくなる。妊婦のチェックリストより父母共子供時代の問題点が浮か

び上がり、一次介入で解決できないため、6カ月目二次介入となった。

母は一人っ子。母の父親はアルコール依存症でよく母に暴力を振るった。度々父親を殺してやりたいと思った。母が胎児期、母親妊娠8カ月の時、父親が母親を叩き、お腹を蹴った。直後破水し、母は出生体重2,600gの早産児で生まれた。母親はいつも「早産児で、障害児になるのではないかとすごく心配した」と母に話した。

父は幼児期母親から虐待を受けた。6歳時に離別し、妹と共に父親と祖父母に育てられた。母親に対して恨みを持っている。母は「夫は子供時代虐待を受けているので、子供を虐待するのではないかと心配になる。

母と母の出生時の状態と流産の夢とが似ていること"を話し合い、父には新聞の折り込み広告で筒を作り、胎児心音を聞かす、お腹に触らせ、胎動を見せ、触れさすように働きかける事を話し合った。

その夜母は父と夢の原因について、自分の出生時のこと、お互いの父親母親のことを話しあった。翌日母は母親に夢の原因について話した。母親は涙で聞いてくれた。3日目より流産の夢はなくなった。父は毎日のように楽しみながら胎児心音を聞き、母のお腹に触って、胎動を感じ、喜んでいる。

現在妊娠9カ月。父母共出産を楽しみに待ち、子供の名前を色々話し合っている。

事例3： 24歳 2回目妊娠 子供はどうなってもいい

妊娠5カ月。母に貧血、切迫早産、胎児発育不全有り、治療を勧めるが受け入れない。父の来院を頼んでも来ない。治療をいくら勧めても「子供はどうなってもいい」と言ってまともに治療をしようとしなない。

チェックリストより父の子供時代に問題があることが分かってきた。一次介入の結果ようやく父が来院、助産婦が話を聞くと、父は子供時代に虐待を受けており、生まれた子供を虐待するのではないかと心配して、父が出産を拒否していることが分かった。「今、家内の連れ子を育てるのに精一杯だからもう子供はいらない」。産科医、助産婦の温かい支えでようやく治療を受けるようになり、出産に漕ぎ着けた。出産後育児相談と言うことで二次介入となった。

母は前夫と離婚し、6歳男児を連れて父と再婚。父は義息子に対して「絶対怒らないように気を付けている」と言う。

生後3週間の健診で全く心配ないこと、上手な子育てをしていることを伝え安心させた。2週間後再診。父母から詳しく話を聞いた。

父は「父親はアルコール依存症で、2歳頃母と離婚した。6歳父再婚。義母より激しい虐待を受けた。父親も助けてくれなく、人は絶対信用できないと思った。中学校時代、非行に走った。父親、義母共に無視され、先生にはよく怒られた。中学卒業後、家を出て色々

な仕事をした。人に頼らず、一人で頑張って生きてきた。24歳、今の妻と結婚した。

妊娠と聞いてすごく嬉しかった。でも可愛い子供でも、虐待するのではないかと、すごく恐くなった。だから子供は持つてはいけないと思うようになった。でも今ではこの子が生まれてよかったと思う。元気に泣く姿を見ると楽しくなる。」と言う。

母は「妊娠して本当は嬉しかった。でも主人が「子供はいらん」と強く言うからもうどうでもよくなっていた。けど元気に生まれて、主人も喜んでくれてよかった。」と言う。

「自分の過去の辛い事を話す事が出来、虐待の危険性がある事を自覚できればもう大丈夫。すばらしい奥さんに巡り会い、可愛い子供に二人も恵まれて幸せ者。」と説明した。

父は「話を、真剣に聞いてもらってスッキリした」と言った。

その後時々助産婦に電話がかかってくる。6ヶ月健診で来院。父母共混乱なく、児も順調に発育している。兄も児を可愛がっている。

2. 保育園での介入

園児116名中一次介入のみで16例だった。

事例1： 4歳 女児

父離別。育児放棄。母に愛人が出来、毎夜自宅に来る。子供は別れた父の家、母方祖父母の家等に泊まりに行く。兄は「今日はどこに泊まるんじやろう。ママの家、パパの家、おばあちゃんとか」とか言う。時々朝食を取らないで通園する。保母が兄の甘えを受け入れ、父に働きかけ、父が引き取ることを考えている。

事例2： 2歳11ヶ月 女児

言語発達遅延有り。母は早口で子供に合わせて話をしない。いつも着飾っている。子供を眺めて、一緒に遊ばない。母は子供時代父親母親に甘えた経験がほとんどない。保育士が母子を誉め、兄への接し方を見せて説明した。母は抱っこ、兄に合わせての話し掛け大分できた。

事例3： 4歳 女児

双生児第2子(第1子男児)、兄弟同胞4人。父は子供を可愛がるが立腹すると物に当たる。家では双生児の片方の男児が強く、母を取り上げ、母に甘える機会が少ない。指しゃぶりあり。母に積極的な兄の相手を勧めた。兄は母によく甘えるようになった。

事例4： 5歳 男児

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

一人っ子。抗けいれん剤服用中。友達の物を取る。母看護婦で夜勤あり、「最近この子が可愛くなくなった」と言う。家でテレビばかり観ている。母の苦労ををねぎらう。児は母に甘えるようになった。

事例 5： 2歳5ヶ月 男児

指しゃぶりがひどい。祖母は未婚の母親で母の姉と母と母の妹の3人を育てる。母の姉も未婚で4人の子供を育てている。母の妹も未婚で子供一人育てている。母は児を出産後すぐ離婚。母を誉め、児は母に甘えるようになった。

事例 6： 5歳 女児

友達と遊べない。指しゃぶりあり、保育士に異常にくっついてくる。父は転々と職を換え落ち着かない。母夜間の仕事。母の苦労ををねぎらう。母は児の甘えを大分受け入れられるようになる。

事例 7： 6歳 女児

児が異常に保育士にくっつきまわる。父が精神病院に入院。父方祖父母から「母が原因で入院になった」と責められている。母の苦労ををねぎらう。児は母に甘えている。

事例 8： 4歳 男児

塾に通わせている。母進学高校受験失敗。母の姉は進学高校卒業。指しゃぶりあり。児の母に対する甘えを大切にするように指導し経過観察中。

事例 9： 4歳 女児

母子家庭。母激しい性格。子供の先に立って歩く。児は保育士にくっつきまわる。母ををねぎらい、母に児が保育士に甘えるところを見せ、児を誉め、甘えの受け入れを指示。

事例 10： 4歳 女児

母はいつも着飾っている。保育士に「この子は先生がいないと何も出来ない」と言う。保育士に異常に甘える。母に児の保育士への甘えを見せ、児を誉め、甘えの受け入れを勧めている。児も母に大分甘えるようになった。

事例 11： 3歳5ヶ月 男児

事例 10 の弟。何でも手づかみで食べる。母に甘えの受け入れを指導。

事例 12： 2歳1ヶ月 男児

児が乱暴なことをする。母は受け入れたり、突き放したり一貫性がない。母の労ををねぎらい、子供を誉め、甘えの受け入れを指導している。

事例 13： 4歳4ヶ月 女児

事例 12 の姉。保育士にべったりくっついたり、反抗したりする。母の労ををねぎらい、児を誉め、甘えの受け入れを勧めている。

事例 14： 5歳 男児

事例 13 の兄。保育士に友達のことを色々申し上げる。会話時視線が合わない。母の苦労ををねぎらい、児を誉め、甘えの受け入れを指導。

事例 15： 5歳7ヶ月 男児

2歳8ヶ月より通園。3歳児検診で言葉の遅れを指摘され母はショックを受けた。4歳より療育センターに通っている(1 2回/月)。他に尿失禁、友達と遊べない等あり。チェックリストより父母子間に安定型愛着関係が十分に出来ていないことが分かった。保育士は母ををねぎらった。母は保育士に勇気づけられ、言語訓練の様子、家庭内のこと、世間話等保育士に色々話すようになった。父・母・兄・妹の4人家族。父は児の側で自分勝手に幼稚な遊び(おもちゃ等で)をする。

児は乳児期から独り遊びをして、手が掛からなく、良い子だった。父母とも児に話し掛けることがあまりなかった。1歳頃、児の話が母には全く理解出来なかった。母はだんだんと児を抱っこすることも多くなった。児は最近療育センターへ行く時、母と車に乗るのを非常に喜び、保育士に甘えることも多くなった。言語も随分発達し、尿失禁もほとんど無くなっている。

事例 16： 4歳 女児

保育士が児の顔に不自然な引っ掻き傷、皮下出血があることに気付く。チェックリストで保育士の顔を見て異常に甘える、悪戯がひどい、排尿を我慢し時々漏らす、指しゃぶり、ひとり遊び、チック等心の傷を疑

う症状あり。家族関係では父49歳、母27歳、児は父の連れ子、2歳の妹がいる。朝夕の送り迎えの様子より母の受け入れが不十分なことが分かった。児に聞くと「母にお腹をキックされる」という。虐待を疑い、保育士が積極的に母と雑談する、母の労ををねぎらう、児を誉める等した。母は保育士に家庭内のこと等色々話すようになる。3ヶ月後受け入れは不十分だが、虐待を疑わず身体的外傷は無くなっており、児の心身症様症状も軽くなっている。

3. 乳児園での介入

一時介入10例、内二次介入1例だった。

1) 一次介入のみ事例

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

事例1： 1歳5カ月 女児

母 27 歳、父親不在で育った。児は母とその愛人との間に第三子として出生。母経済的に苦しくなり、精神的に孤立し生後 1.5 カ月で入所。母は最初面会回数も少なく、来ても児の相手をほとんどしなかった。保育士の温かい支援で面会回数も多くなり、子供への接し方も上手になり、児も母になついている。

事例2： 2歳11カ月 男児

父 36 歳、軽症分裂症。母 39 歳、境界型人格障害。両親より虐待を受け、1歳7カ月入所。児は他児に対する暴力的行動、夜驚症、屋外を怖がる、言語発達遅延等あり、保育士のアタッチメント療法でほとんど正常となった。父母に頻回の面会を勧めた。最初は児は父母を見て泣き、怖がった。父母をねぎらい、面会を続けさせ、面会時保育士がついて父母と児を遊ばせた。最初保育士から離れなかったが、徐々に父母に甘えるようになった。自宅外泊はまだしてないが、父母は楽しんで面会に来ており、児も父母に甘えている。

事例3： 1歳4ヶ月 女児

母離婚、児と姉に対する関わりがほとんどとれなく、軽い虐待有り、4ヶ月で入所。児はアタッチメント療法で表情豊かになり、母は保育士による母子介入で児と関わりを持てるようになり、外出、外泊もでき、虐待も無くなっている。

事例4： 2歳2ヶ月 男児

母が「子供に関わりが持てず、虐待しそう」と育児ノイローゼになり生後6ヶ月で入所。保育士の母子介入で大分関わりを持てるようになり、時々自宅外泊もしている。

事例5： 2歳3ヶ月 男児

母婚姻外出産。愛情はあるが養育方法が分からず、生後7日で入園。保育士の母子介入で母親らしくなり、育児にも大分自信持てるようになっている。

事例6： 2歳4ヶ月 女児

母 18 歳。婚姻外出産。周囲の勧めで養子縁組希望。産院の指導により退院するまで本児に合わせてもらえず、母乳も飲ませていない。生後6日入園。入園時初めて本児を抱き、母乳を飲ませ涙する。以後母は毎日のように来園し母乳を与えた。母子介入で上手に子供に関わるようになる。養子に出すことを止め、自分で育てるために定職につき、経済的に自立もできた。2歳4ヶ月退園、現在保育園に通っている。

事例7： 1歳6ヶ月 女児

母 2 歳。婚姻外出産。経済的困窮あり関わりを持とうとせず、生後2ヶ月で入園。保育士の母子介入で、母は自分が被虐待児であったことを保育士に話すことが多くなり、本児との関わりも上手になり、家庭への外泊も多くなっている。

事例8： 1歳4ヶ月 女児

母 2 歳。婚姻外出産。知能が低く、養育能力不十分なため、生後7日目入園。母にできるだけ頻繁に来園させ、保育士が母子介入した。最初母は子供にどう接してよいか分からず、ただ傍観するのみであったが、徐々に子供を抱っこしたり、食事介助ができるようになった。母は頻繁に来園し本児の成長を楽しみにしている。

事例9： 1歳5ヶ月 女児

母離婚、母が落ち着いて児への関わりができず、経済的自立のため8ヶ月目入園。児は心的外傷症状があったがアタッチメント療法で落ち着いた。保育士の親子介入で母も徐々に落ち着き、児との関わりも持てるようになり、定職につき自立の道を歩き始めた。

事例10： 11ヶ月 男児

母離婚。経済的に苦しく2ヶ月で入園。本児への関わりが十分で無く、2歳の兄にも軽い虐待が有った。保育士が母子介入し、母は徐々に来園回数が多くなった。母自身婚姻外出産し、母親より軽い虐待を受け、辛かったこと、自分が子供を受け入れることができず、いらいらして兄を虐待したこと等を話すようになった。母は徐々に落ち着き、児への関わりも上手にできるようになり、兄への虐待も無くなっている。

2) 二次介入事例

事例： 7ヶ月 女児 母の育児困難

母が精神的に疲れて子育て出来なくなったので預かってほしいと福祉科に父から電話が入った。母は某医にかかり服薬していると言う。緊急に乳児園に預かる。チェックリストより母子の情緒関係障害を疑った。父は毎日、母は時々乳児園へ児に面会に来た。母は連絡帳で保育士に自分の辛さを色々話すようになり、母の希望で医師にカウンセリング要請があり、2週間後、乳児園へ出向いていった。

父・母・姉(3歳、保育園)・本児の4人家族。母は「本児が生まれてから、1日数回パニック状態になり、6ヶ月前より、自立神経失調症として精神安定剤、睡眠剤、鎮痛剤を服用しているが病状はかえって悪化し、服薬回数が多くなり、1日中ふらふらになり全

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

く仕事が出来ない。私は母親の資格がない」と言う。

「発作時、急に気分悪くなり、目の前が真っ暗くなり、何も聞こえなくなり、泣きながら、暴れる。自分は全く覚えていない。夫に押さえてもらっていると落ち着く」、「子供時代、父親がアルコール依存症で、毎日のように泥酔し母親を怒鳴りつけ、叩いたり、蹴ったりした。小学校の時、よく兄と二人が叩かれる母の上にかぶさって母を守った。その時、訳分からなくなり、気分が悪くなり、見たくなく、聞きたくなく、泣きながら、全身で抵抗して母親を守った。今は父親も年とってあまり飲まなくなった」と言う。

子供時代、父親の暴力から母親を守った時の混乱した気持ちと、今の発作と関連有ることを気付かせた。母は「発作の原因が分かり胸の中がすっきりした。」と言った。

自宅に帰って父に子供時代の辛かったことを泣きながら詳しく話した。その後、面接4回。まだ時々気分は悪くなるが、激しい発作は無くなった。服薬量も大分少なくなり、パートの仕事もし、毎日父と共に乳児園に児に面会に来、時々自宅へ外泊もさせている。

考案、結語及び今後の課題

最近の思春期以後の精神的混乱は想像を絶する状態である。児童相談所に非行等で一時保護されて来る子供達を見ると、全員親子間に安定した愛着関係ができていなく、心の安全基地ができていない。

温かく、たくましい心の基礎は乳幼児期の温かい親子関係の中で作られる。チェックリストを使用し、父母の子育て混乱、親子関係の歪み、子供の心の傷をピックアップし、早

期に介入すれば、虐待等子育て混乱も予防でき、児の心の傷も癒され、安定した愛着関係ができ、心の安全基地もでき、思春期以後の精神的混乱も予防できる。また乳幼児の心的外傷は早期に発見し、早期にアタッチメント療法を行えば癒される。

チェックリストを使用してのリスク親子の発見、治療的親子介入は非常に効果があるが、下記のような問題点もある。

1) チェックリストはリスク妊婦、リスク親子 発見の手助けとして使用されるべきで、安易にこの結果に頼ると誤診になる危険性がある。

2) 使用する助産婦、保育士は乳幼児精神保健の知識を十分に身に付け、自分の見たいを一番大切にし、チェックリストの結果に操られることなく、上手に利用すべきである。

3) リスク 事例への対応は、その事例に合ったそれぞれ異なった介入をすべきで、集団での対応では本格的育児混乱の解決にはならない。

4) 一次介入は乳幼児精神保健の専門家の指導の下で助産婦、保育士が行い、一次介入で困難な事例は、現場の職員の協力の下で二次介入を乳幼児精神保健の専門家が行う。

5) リスク親子に対する保健婦の役割を検討する必要がある。

6) より良いチェックリストの作成と助産婦・保健婦・保育園保育士、乳児園保育士の関係方法を考える必要がある。

7) 助産婦、保健婦、保育士に対する乳幼児精神保健の教育方法を早急に考える必要がある。

8) 早急に乳幼児精神保健の専門家を多数養成する必要がある。

参考文献

- 1) 澤田敬：乳幼児の心身症、清水凡生編：小児心身医学ガイドブック、北大路書房、103～117、1999
- 2) 深津千賀子他：育児困難を訴える母親の診断と治療、精神分析研究 Vol.36, No.5, 516-529 1993
- 3) 岡田高介：自動虐待から学ぶ家庭援助のあり方、周産期医学 Vol.23, No.10, 1439-1443 1993
- 4) 渡辺久子：虐待の世代間伝達を断ち切る、助産婦雑誌 Vol.52, No.8, 674-680 1998

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

図 2

子育て環境調査（妊娠用 2）

年 月 日

氏名 歳 妊娠 ヶ月

元気な赤ちゃんを産み、育てていくための育児支援に役立てるため、該当する項目に 0 印を、（ ）は適当に記入をして下さい。

1. 学歴：母・ 中学卒 高校卒 専門学校卒 大学卒（ 短大 四大以上 ）
父・ 中学卒 高校卒 専門学校卒 大学卒（ 短大 四大以上 ）
2. 職業：母（ ）父（ ）
4. 母子家庭（父親： 死亡 離婚 未婚 ）
5. 再婚家庭：母・ 子供（ ）人連れて 子供（ ）人前夫の元へ 子供いない
父・ 子供（ ）人連れて 子供（ ）人前夫の元へ 子供いない
6. 家庭不和：（ 夫と 舅と 姑と その他（ ） ）
7. 精神的混乱：（ ）
8. 妊娠を（ 喜んでいる あまり喜ばない 全く喜ばない ）
9. 妊娠中の生活指導を守れない。
10. 父親の来院： 毎回 時々 無し（ 仕事の都合 来院を嫌がる ）
11. エコー時：
 - 1) 胎児の姿を見て： 喜ぶ 喜ばない
 - 2) 集数に応じて胎児の成長を： 喜ぶ 喜ばない
 - 3) 父親はエコーを見て： 喜ぶ 喜ばない 見ようとしな
 - 4) 自宅に持参した胎児エコーのビデオを：よく見る（ 夫と 一人で ）
時々見る（ 夫と 一人で ） 全く見ない
12. 胎児を： 大切にす 大切にしない
13. 胎動： 喜ぶ（ 積極的に 消極的に ） 喜ばない
14. 治療が必要な時： 積極的に治療する 消極的に治療する 治療を拒否する
15. 分娩時夫が： 妻の世話をよくする しぶしぶする 全くしない
16. 立ち会い分娩： 希望する（ 積極的に 消極的に ） 希望しない
17. 出生直後の赤ちゃんの抱っこ：母・ 喜ぶ あまり喜ばない 拒否
父・ 喜ぶ あまり喜ばない 拒否
18. その他：（ ）

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

図3

幼児の心身症、気になる癖、異常行動チェックリスト(0~24ヵ月)

年 月 日

組 氏名 月 性別:

子どもの症状で当てはまるものに0をつけて下さい。

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1) よく泣く | 2) 食欲がない |
| 3) よく嘔吐する | 4) 抱っこを嫌がる |
| 5) だっこした時身体が固い | 6) お昼寝が出来ない |
| 7) ぐっすり眠れない | 8) 昼寝時よく泣く |
| 9) 他児に意地悪をする | 10) あまり甘えてこない |
| 11) 目線が合わない | 12) 皮下出血、熱傷、その他虐待を疑わせる外傷() |
| 13) その他() | |

図4

幼児の心身症、気になる癖、異常行動チェックリスト(25~48ヶ月)

年 月 日

組 氏名 月 性別:

子どもの症状で当てはまるものに0をつけて下さい。

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1) 友達と遊べない | 2) 一人遊びをする |
| 3) 先生に異常にくっついている | 4) おもちゃを乱暴に扱う |
| 5) 他児にいじわるをする | 6) 先生等大人のご機嫌をとる |
| 7) いたずらがひどい | 8) よく腹痛を訴える |
| 9) 吐気を訴える | 10) 目をパチパチさす |
| 11) 口をひどく曲げる | 12) よく足を痛がる |
| 13) 頻尿 | 14) 尿失禁 |
| 15) 便失禁 | 16) 言葉が遅れている |
| 17) 吃声 | 18) 話すとき目が合わない |
| 19) 頭痛を訴える | 20) 寝言、寝ぼけがひどい |
| 21) 胸部痛 | 22) 息苦しさを訴える |
| 23) 頸部痛 | 24) 給食を食べれない |
| 25) 好き嫌いが激しい | 26) 指しゃぶり |
| 27) 爪噛み | 28) 性的異常行動() |
| 29) 抜毛 | 30) はんかち、人形など一つのものを持ち回る |
| 31) 抱っこした時身体が固い | 32) 抱っこを嫌がる |
| 33) 奇声をはっする | 34) 多動 |
| 35) 親の心をしつこくかき回す | 36) 聞こえているのに聞こえないふりをする |
| 37) 部屋の端っこを好む | 38) 通園をしぶる |
| 39) 皮下出血、たばこによる熱傷、その他虐待を疑わせる外傷() | |
| 40) その他() | |

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

図5

幼児の心身症、気になる癖、異常行動チェックリスト(4~6歳)

年 月 日

組 氏名 歳 性別:

子どもの症状で当てはまるものに0をつけて下さい。

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 1) 友達と遊べない | 2) 一人遊びをする |
| 3) 先生に異常にくっついている | 4) おもちゃを乱暴に扱う |
| 5) 他児にいじわるをする | 6) 先生等大人のご機嫌をとる |
| 7) いたずらがひどい | 8) よく腹痛を訴える |
| 9) 吐き気を訴える | 10) 目をパチパチさす |
| 11) 口をひどく曲げる | 12) よく足を痛がる |
| 13) 頻尿 | 14) 尿失禁 |
| 15) 便失禁 | 16) 言葉が遅れている |
| 17) 話すとき目が合わない | 18) 頭痛を訴える |
| 19) おねしょ | 20) 寝言、寝ぼけがひどい |
| 21) 吃声(どもり) | 22) 胸部痛 |
| 23) 息苦しさを訴える | 24) 頸部痛 |
| 25) 給食を食べれない | 26) 好き嫌いが激しい |
| 27) 指しゃぶり | 28) 爪噛み |
| 29) 性的異常行動(| 30) 抜毛 |
| 31) はんかち、人形など一つのものを持ち回る | 32) 抱っこした時身体が固い |
| 33) 抱っこを嫌がる | 34) 奇声をはっする |
| 35) 多動 | 36) 親の心をしつこくかき回す |
| 37) 聞こえているのに聞こえないふりをする | |
| 38) 部屋の端っこを好む | 39) 通園をしぶる |
| 40) 皮下出血、たばこによる熱傷、その他虐待を疑わせる外傷(|) |
| 41) その他(|) |

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

図6

子育て環境調査（保育所用）

年 月 日

組 氏名 歳 性別： 男 女

子どもは豊かな環境で、心温かい人物に育ててもらわなくてはなりません。子育て支援に役立たせていただくため、下記の該当する項目に0印、()には適当に記入して下さい。

- 1) 父：()歳 ()卒 職業()
母：()歳 ()卒 職業()
- 2) 子ども：()人 児は第()子
- 3) 祖父母：父方：同居 別居(近くに 遠くに)
母方：同居 別居(近くに 遠くに)
- 4) 母子家庭：児が(歳 カ月)の時離別 母と同居の子ども(人/ 人中)
- 5) 父子家庭：児が(歳 カ月)の時離別 父と同居の子ども(人/ 人中)
- 6) 再婚家庭：父再婚(連れ子 人/ 人中) 母再婚(連れ子 人/ 人中)
- 7) 家庭内不和：無し 有り (父-母 母-父方祖父母 母-母方祖父母
父-父方祖父母 父-母方祖父母)
- 8) 経済的困窮：無し 有り
- 9) 家庭内の病人：無し 有り
- 10) 毎日の送り：有り(母 父 祖父母) 無し
迎え：有り(母 父 祖父母) 無し
- 11) 子供の受け入れ：十分(父 母) 不十分(父 母)
- 12) 朝食：毎日取る 時々取らない 全く取らない
- 13) 子育てを：楽しんでいる(父 母) 楽しんでいない(父 母)
- 14) しつけ：厳しすぎる(父 母) 普通(父 母) 放任(父 母)
- 15) 子供の世話を：よくする(父 母) あまりしない(父 母) 全くしない(父 母)
- 16) 早期教育(習い事、スポーツ等も含めて)：過剰 普通 全くしていない
- 17) 精神状態：混乱有り(父 母) ()
- 18) その他()

図7

子育て環境調査（乳児園用）

年 月 日

組 氏名 歳 性別： 男 女

該当する項目に0印、()には適当に記入して下さい。

- 1) 父：()歳 ()卒 職業()
母：()歳 ()卒 職業()
- 2) 子ども：()人 児は第()子
- 3) 祖父母：父方：同居 別居(近くに 遠くに) 死亡(祖父 祖母)(父()歳の時)
母方：同居 別居(近くに 遠くに) 死亡(祖父 祖母)(父()歳の時)
- 7) 家庭内不和：無し 有り (父-母 母-父方祖父母 母-母方祖父母
父-父方祖父母 父-母方祖父母)
- 4) 母子家庭：児が(歳 カ月)の時離別 母と同居の子ども(人/ 人中)
- 5) 父子家庭：児が(歳 カ月)の時離別 父と同居の子ども(人/ 人中)
- 6) 再婚家庭：父再婚(連れ子 人/ 人中) 母再婚(連れ子 人/ 人中)
- 8) 経済的困窮：無し 有り
- 9) 家庭内の病人：無し 有り
- 10) 何でも相談できる友達： いる いない

幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

- 11) 子育てを： 楽しんでいる(父 母) 楽しんでいない(父 母)
- 12) 子供の世話を：よくする(父 母) あまりしない(父 母) 全くしない(父 母)
- 13) 精神状態：混乱有り(父 母) ()
- 14) 父母の子供時代
- a) 母に対して
- 母の父親： やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた
相手になってくれなかった 子供時代離別(母が 歳の時)
- 母親： やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた
相手になってくれなかった 子供時代離別(母が 歳の時)
- 母の兄弟姉妹： ()内に男女を書き母のところに0をつけて下さい
1()、2()、3()、4()、5()、6()
- 母と兄弟姉妹： 一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった
弟または妹の子守をよくした
- 父母以外の人に育てられた： 祖父母(父方 母方) 親戚(父方 母方) 施設
- 子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ
ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした
赤ちゃんの世話をよくした 忘れた 話したくない
- b) 父に対して
- 父の父親： やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた
相手になってくれなかった 子供時代離別(父が 歳の時)
- 母親： やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた
相手になってくれなかった 子供時代離別(父が 歳の時)
- 父の兄弟姉妹： ()内に男女を書き父のところに0をつけて下さい
1()、2()、3()、4()、5()、6()
- 父と兄弟姉妹： 一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった
弟または妹の子守をよくした
- 父母以外の人に育てられた： 祖父母(父方 母方) 親戚(父方 母方) 施設
- 子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ
ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした
赤ちゃんの世話をよくした 忘れた 話したくない